

卒業記念の土器窯出し



▲焼き上がった作品を窯から取り出す児童ら。

北条小学校6年生73人が2月6日、もみや木ぎれを積んで焼き上げた土器などを窯出ししました。

作品はPTA活動で作った「ミニ羅漢」約400個と総合学習で作った「縄文土器」約70個。児童らが校内に直径約1.8m、深さ約50cmに掘って作った窯で1月25日から焼いていたものです。

同校では毎年、卒業記念の作品づくりとして行っており、児童たちは「よい思い出ができた」と満足そうでした。

ボランティアの力を再確認



▲盛況だった気仙沼市の特産品物産展。

「第13回ボランティアのつどい」が1月28日、健康福祉会館で開催され、約1,000人が参加しました。

「思いやり、誰もができるボランティア」をテーマに、日頃の活動に対する表彰や市内小・中・高校生による体験発表が行われました。また、東日本大震災で被害を受けた宮城県気仙沼市の松下尚子・市民会館長が、全国からの様々な支援活動について講演を行なうなどして、参加者は災害時のボランティア活動の重要性を再認識しました。

むかしなつかし正月遊び



▲たこあげや竹馬に興じる子どもたち。

善防公民館で1月29日、「正月遊びの集い」が開催され、子どもから大人まで約600人が参加しました。

同公民館で活動している登録グループなどが毎年行なっている行事で、賀茂・下里地区の皆さんボランティアで協力し、地域をあげてイベントを盛り上げています。

参加者は、もちつき、羽つき、たこあげ、こままわし、竹馬など、世代を超えて楽しめる昔ながらの遊びを体験しました。

北条鉄道のプロモーションビデオ制作中



▲北条鉄道の社員にインタビューする学生たち。

北条鉄道の活性化を図ろうと、関西学院大学の学生ら9人が2月10日、PR用のプロモーションビデオを制作するため、乗客へのインタビューや沿線風景の撮影などを行いました。

制作に取り組むのは同大学の「学生ベンチャー創成塾」のゼミ生たち。平成22年度から同鉄道と連携し活性化策を研究しています。「地域の人にも北条鉄道の良さをアピールしたい」と北条鉄道ホームページで公開予定、3月中の完成をめざしています。

タケトピックス
まちの出来事

戦争遺産「機銃座」を清掃



▲機銃座の直径約5mのくぼみ部分を土砂さらい。

地域住民ら9人が2月19日、鶴野飛行場跡周辺に残る機銃座1基の清掃作業を行いました。

周辺に現存する4基の内の一つで、戦時中は25mm連装機銃を装備し、同飛行場の空を守っていたもの。戦後、長年放置され、土砂が堆積し地下の弾薬庫は水浸しになっていました。自衛隊青野原駐屯地からも隊員6人が応援に駆けつけ、土砂さらいや草刈、ポンプで水の汲み出しなどを行いました。今後、戦争遺産として観光への利用を検討されています。

腹話術で笑顔を届けて20年



▲会員が腹話術でこばなしを披露。

南部公民館で2月19日、腹話術愛好家でつくる「ロゴス腹話術研究会加西」の創立20周年を記念した催しが開かれました。

同研究会は、平成4年に北部公民館の登録グループとして発足し、約30人の会員が春風小イチロー（深田哲男）さんの指導のもと練習を重ね、敬老会や保育所などでボランティア活動をされています。当日は観客約300人が集まり、会員が腹話術を披露。人形との愛らしい掛け合いで、会場は笑いに包まれました。

熱戦、全校児童で百人一首



▲全校児童が見守る中、藤井くん（左）と常峰さんで決勝戦。

宇仁小学校の体育館で1月27日、全校児童が参加する「百人一首大会」が開かれ、熱い戦いが繰り広げられました。

冬休みに百人一首を覚えた児童たちの腕を競う催しで、今年で9回目。学年別に1対1のトーナメント方式で勝者を決めた後、各学年の優勝者同士が対戦して学校No.1を決定します。決勝では、藤井広輝くん（4年生）と常峰美月さん（6年生）が対戦し、接戦の末、常峰さんが優勝しました。

ランドマーク展望台、四季の写真を展示



▲市長賞「昇陽」（都倉重忠さん・加古川市）。

ランドマーク展望台の指定管理者(株)ホープが、四季の自然や景色をテーマに、加西市のシンボルモニュメントとしてPRできる、魅力あふれる写真を募集。元日に行われた「新春のつどい」会場で、参加者による投票の結果、入賞作品など2点が決定しました。応募作品9点の展示は次のとおりです。

■加西市ランドマーク展望台フォトコンテスト作品展
会期／3月15日（木）まで 場所／加西市役所1階ロビー